

目次	・就任のご挨拶	・・・ 1	・部署紹介	・・・ 5
	・世界糖尿病デーイベントについて①	・・・ 2	・心臓リハビリテーションについて	・・・ 6
	・世界糖尿病デーイベントについて②	・・・ 3	・新入職員紹介、編集後記	・・・ 7
	・人食いバクテリア症について	・・・ 4	・外来診療表	・・・ 8

就任のご挨拶

副病院長 豊永 哲至



平成27年10月から副院長として赴任しました豊永哲至と申します。菊池は自然が豊かで食べ物もおいしく、極上の温泉と人情にあふれた街であり、また素晴らしい歴史の舞台でもあります。この様な大変魅力的なところで診療が出来ますことを大変楽しみにしております。

私は、東京オリンピックが開催された昭和39年生まれで、熊本育ちです。昭和63年に熊本大学医学部を卒業し、平成6年に熊本大学大学院を修了しました。医師になって27年が過ぎましたが、これまでのほとんどを急性期の病院にて診療しておりました。当院の前は国立病院機構熊本医療センター(昔の国立熊本病院)に8年半勤務していましたし、その前は熊本大学病院に勤務していました。当院は、かかりつけ医の先生方と連携して地域の皆さまに信頼され、愛される病院を目指していますので、この目標に到達するように診療の深さや広がりについて新しく勉強していきたいと考えております。また、単に病のみを診るのではなく、社会的背景も考慮した全人的な医療を提供していきたいと思えます。

私の専門診療領域は糖尿病・脂質異常症・尿酸代謝異常などの代謝疾患と脳下垂体疾患・甲状腺疾患・副甲状腺疾患・副腎疾患などの内分泌疾患ですが、その他、人間ドックもこれまで専門として行っていました。これらの疾患は対象患

者が多く、いわゆる生活習慣病ですから診断治療のみならず予防対策も重要となってきます。菊池医療圏は検診で見つかった糖代謝異常を病院受診へ結びつける行政的な取り組みを行っている先進的な地域です。熊本県は透析導入が全国的にも非常に高い県ですが、この取り組みが糖尿病の予防につながり、ひいては透析予防につながるか全国的にも注目を集めているのです。11月は全世界で糖尿病についての啓発活動が行われる月です。菊池のおいしい食べ物を健康的に頂くためにも是非当院での啓発活動イベントにご参加ください(次ページに詳細が載っています)。

本年、当院は創立50周年と新築移転3年周年を迎えました。新たな段階へと飛躍するために、ますます地域医療に貢献していかなければならない使命を有しています。医師会、行政、急性期病院、地域の医療・介護施設、住民の方々などと力を携えて当院の使命を全うするために、副院長として病院の職員と力を合わせて微力ながら努力して行きたいと思えます。温かいご指導とご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。

11月10日は 世界糖尿病デー in きくち

糖尿病センター長 田口 哲也



平成25年から始まった「世界糖尿病デー in きくち」、3回目となる今年は11月10日(火)の13時～16時に当院2階多目的ホールにて開催されます。

このイベントの歩みは、そのまま糖尿病センターの歩みにも重なります。

第1回目は、糖尿病センター発足して間もない時期で、目先に迫ったフットケア外来の開設に力を注いでいた分、(私自身も含めて)イベントを失念してしまっていて、あわてて看護部、薬剤科、栄養科、臨床検査科、リハビリテーション科に開催を呼びかけ、外来ロビーでの相談コーナーという形で行いました。それでも患者さん16名にご参加いただきました。非常勤でご出勤中の熊大代謝・内分泌内科荒木教授を囲んだ記念写真を撮り、なんとか体裁が得られました・・(汗)。

2回目の昨年は、9月に糖尿病学会の教育施設認定を受け、糖尿病スタッフも自信を持って療養にあたる中で、イベント実行委員会を組織、担当の事務部スタッフが辣腕をふるったおかげで、当院オリジナルの糖尿病デーイラストが決定し、これをモチーフに宣伝用のぼりとスタッフジャンパーが作成されました(イベント後も愛用者が続出!?)。イベント当日は鞠智城のゆるキャラ「ころう君」を招いて「さきもりころう隊」による体操実演と、看護部の寸劇2回公演(!)、そして日没後に病院ブルーライトアップ、と賑やかに会を開催できました。翌日の地元新聞にも報じられ、当初はホップ→ステップのつもりだったのが、一気にホップ→ジャンプまで達した印象でした。

そして今年、まさにジャンプの年です。さらに経験を積んだ委員会メンバーは、予算計上から周到に準備をはじめ、広報きくちへの案内など宣伝に力を入れ、イベントの目印となる世界糖尿病デーのモニュメントと案内用看板を作成しました。そしてイベントには、昨年の「ころう君」再登場(!)、のみならず、いまや熊本のシンボル「くまモン」の参加までもが決定しました。ゆるキャラと思う存分に触れあい、体操も行いますが、ほかにも血糖・HbA1c測定、栄養相談やバランステスト、フットケア体験などなど、内容盛りだくさんで、楽しくマジメに糖尿病のPRを行います。みなさん、ふるってご参加下さい。お待ちしております。



▲ 第1回目のイベントの様子



▲ 第2回目のイベントの様子

第3回 くまモン&ころう君もやってくる!!

世界糖尿病デー

World Diabetes Day

IN

きくち



● 日時
2015.11.10[火]

13:00~16:00

● 場所 菊池郡市医師会立病院
2F 多目的ホール

**入場
無料**

菊池郡市医師会立病院の糖尿病治療スタッフが11月14日の「世界糖尿病デー」に合わせ、糖尿病の予防・治療への取り組みの重要性を喚起する啓発活動イベントを開催します。

13:00~16:00

特設ブースにて健康教室

栄養指導・運動療法・血糖測定・
お薬の相談・血液検査・フットケア
など専門スタッフが対応します。
健康に関することなんでもご相談
ください。



13:30~

熊本県PRマスコットキャラクター

くまモン 登場

© 2010熊本県くまモン



14:30~

熊本県鞠智城イメージキャラクター

ころう君 登場

主催

一般社団法人 菊池郡市医師会
菊池郡市医師会立病院

TEL 0968-25-2191

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (人食いバクテリア症) とは



臨床検査科

◇劇症型溶血性レンサ球菌感染症とは

劇症型溶血性レンサ球菌感染症とは、突発的に発症し急激に手足の壊死や多臓器不全に進行する敗血症性ショック病態で、主にA群溶血性レンサ球菌により引き起こされ、年々増加しています。平成27年の全国の患者数は、まだ夏場である8月9日までに報告された患者数がすでに279人に上り、調査を始めた平成11年以降過去最多となりました。

◇劇症型溶血性レンサ球菌感染症の原因と感染経路

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、主にA群溶血性レンサ球菌(Group A Streptococcus)により引き起こされます。通常はレンサ球菌に感染しても無症状のことも多く、ほとんどは咽頭炎や皮膚の感染症に留まります。しかし、稀に通常は細菌が存在しない組織(血液、筋肉、肺)に菌が侵入し急激に症状が進行する重篤な疾患となることがあります。

感染経路は皮膚や粘膜から通常は菌の存在しない筋肉、脂肪組織や血液に溶血性レンサ球菌が侵入することによって病気を起こします。実際の感染経路は明らかにならない場合が多いですが、がんや糖尿病のある方、ステロイドなど免疫を低下させる薬剤を使用している方は発症する危険性が高いとされています。

◇症状

初期症状としては四肢の疼痛、腫脹、発熱、血圧低下。また、疼痛の開始前に発熱、悪寒、筋肉痛、下痢などの風邪やインフルエンザと似た症状で非常に判断しにくいです。発病から症状の進行が非常に急激かつ劇的で、発病後数10時間以内には軟部組織壊死(これにより「人食いバクテリア」と呼ばれる)や急性腎不全、成人型呼吸窮迫症候群(ARDS)、播種性血管内凝固症候群(DIC)、多臓器不全を引き起こし急激なショック状態から死に至ることがあります。

◇感染症法上の取り扱い

全数報告対象(5類感染症)であり、診断した医師は7日以内に最寄りの保健所に届けなければなりません。

◇こんなときにはすぐに受診を

風邪症状を見逃さない。初期症状は風邪やインフルエンザなどと変わりがないため判断は難しいのですが、発熱、筋肉痛、嘔吐などの症状がある場合は自己判断せず医療機関を受診しましょう。

傷口に痛みや腫れがあり発熱などがみられた場合には、直ちに医療機関を受診して下さい。皮膚に紫色の水疱がみられると、深部の軟部組織感染を起こしている可能性が考えられるため一刻を争うこととなります。擦り傷や切り傷などでも、腫れや痛みを感じたら軽視しないことが大切です。

◇予防方法

劇症型溶血性レンサ球菌感染症にワクチンはありません。マスクの着用、手洗いうがいなど基本の感染予防を徹底しましょう。傷口からの感染を防ぐために擦り傷、切り傷は水道水で洗い流し、消毒や覆うなどして病原菌が入らないようにすることが重要です。



部署紹介

3階病棟



3階病棟は、療養病棟で医療療養26床(内ショートステイ2床含む)と介護療養22床の計48床があり、一般病棟での急性期の治療が終了し比較的病状が安定している患者様、家庭や施設に戻るには不安が残る方に引き続き医療的ケアや看護・介護・リハビリを行っています。自宅へ帰られる患者様に対しては安心して家庭生活が送れるよう退院支援看護師を中心に多職種とも連携を図り本人・家族の不安が軽減できるように援助の仕方について指導しています。具体的にはオムツ交換、吸引、経管栄養の方法や、様々な社会資源の情報提供を行っています。医療依存度が高く、自宅や施設での生活が難しい患者様も多く入院しておられるため、療養生活が安全に安心して送れる事を第一に考え、看護師やケアワーカー約30名のスタッフで「患者様に寄り添った看護・介護」をモットーに日々のケアに努めています。

また、長期入院の患者様も多く、食事時には可能な限り車椅子へ移乗し食堂での食事を摂って頂いたり、大勢のなか会話を楽しんで頂いたり楽しい食事環境づくりを心がけています。他に遊びの中にリハビリテーションを取り入れた、遊びリテーションでは歌やゲームなど遊びの中での発声や手足を動かす事で脳や身体への刺激を促し廃用症候群等の予防に努めています。



病棟には屋上庭園も設置されており患者様を天気の良い日は、車椅子やベッドで直接庭園へお連れし散歩や日光浴を楽しんでいただいています。自然の風や空気に触れる事で気分転換にもなり、笑顔やリラックスされた表情になられたりと療養生活への意欲向上へも繋がっており、患者様のいこいの場として活躍しています。他に季節の行事として、春はお花見(病院敷地内)や夏は七夕、秋はミニ敬老会、冬はクリスマス会など企画して患者様に季節を感じて頂き患者様と家族との触れ合いの場をもつ事で、より深い信頼関係が築ける様努めています。



▲ ミニ敬老会の様子

長期の療養生活が患者様にとって安全に安心して療養して頂けるようスタッフ一同支援していきます。

心臓リハビリテーションについて

リハビリテーション科

心臓リハビリテーション(略して「心リハ」とは、患者様自身が自分の病気(心臓や全身の機能)のことを知ることから始まり、各患者様に合わせて運動指導、食事指導、安全管理、危険因子管理、心のケアなどを包括的に行うものです。心リハでは、医師、理学療法士、作業療法士、看護師、薬剤師及び管理栄養士など多くの専門医療職がかかわって、患者様一人ひとりの状態に応じたリハビリプログラムを提案、実施します。



心臓のリハビリの特徴は？

弱くなった心臓の機能を高めるためには、心臓に負荷がかかる要素を取り除きつつ、心臓能力の強化を図っていく必要があるため、生活全般を改善していくという点が特徴です。また、危険因子の払拭、服薬・栄養指導だけでなく、筋肉でできている心臓の機能を高めるため、運動療法を取り入れる点も特徴です。

運動療法とは？

患者様の病状や状態によって医師が運動処方(運動範囲を測定した後)を作成し、それにそって運動療法を開始します。運動は設定された目標脈拍数、自覚強度等を目安に行い、患者様の運動能力の40～60%の有酸素運動が目標になります。(うっすら汗をかく程度の運動)

実際は、準備運動から始め、有酸素運動(歩行や自転車こぎ)～筋力増強運動～応用動作訓練(階段や屋外など)～最後に整理体操を行い終了します。全部で約1時間、週3～5回程度で行います。

運動療法で得られる効果は？

- ・運動することによって、身体・筋肉への酸素の取り込みがよくなります。
- ・運動量が増加することによって、運動能力が改善し楽に動けるようになります。
- ・気持ちよい汗をかくことによって、不安やうつから解放されます。
- ・生活習慣病の危険因子(血圧、血糖値など)の改善につながります。
- ・心筋梗塞の再発や突然死が減り、死亡率が減少します(3年間で約25%低下)。
- ・心不全による死亡率や再入院率が減少します。
- ・心リハは死亡率を56%減少させ、再発を28%減らします。

当院では、
 常勤医師 2名(心リハ指導士1名)
 専従理学療法士 1名(心リハ指導士)
 専任理学療法士 2名
 専任作業療法士 1名 が在籍しており入院・外来での心リハを実施しています。



▲ 心臓リハビリ室での運動療法の様子

新入職員紹介(10・11月付)



副病院長
豊永 哲至

趣味・特技 旅行

医師歴27年で、専門は糖尿病・代謝・内分泌です。これまで急性期病院で診療をしておりました。当院に早く慣れ、慢性期・在宅と幅広い診療を身につけていきたいと思っています。よろしくお願いたします。



医師事務作業補助者
赤星 和美

趣味・特技 映画・テレビ鑑賞
食べ歩き

おいしいものを食べる事、映画やテレビを見る事が大好きです。微力ながら先生方のお役に立てるよう日々努力してまいります。よろしくお願いたします。



医師事務作業補助者
今村 忍

趣味・特技 手芸、英会話

皆様に信頼していただけるように一生懸命仕事に励みます。



医師事務作業補助者
川原 悠衣

趣味・特技 音楽・テレビ鑑賞

皆様の力になれるよう笑顔で頑張りたいと思います。よろしくお願いたします。



医師事務作業補助者
三池 秀一郎

趣味・特技 ドライブ

至らない点も多く、ご迷惑をお掛けするかと思いますが、早く患者様、スタッフの皆様のお役に立てるように努めます。今後ともよろしくお願いたします。



准看護師
高野 智巳

趣味・特技 ショッピング

早く仕事ができるよう一生懸命頑張りたいと思っています。よろしくお願いたします。



准看護師
岩橋 亜希

趣味・特技 美容関係

11月から外来勤務になりました岩橋です。今までの経験と知識を生かし、初心を忘れず頑張りたいと思います。よろしくお願いたします。



検査営業
萩 利恵

趣味・特技 映画鑑賞、料理

早く仕事を覚えるよう一生懸命頑張りたいと思います。よろしくお願いたします。

編集後記

稲刈りの時期も終わり、朝晩は寒くなってきました。空気が乾燥しインフルエンザが流行し始める時期です。インフルエンザ対策としては、予防接種は勿論ですが、それ以外にも感染予防の方法があります。皆さんご存知の「手洗い・うがい」「十分な睡眠とバランス良い食事」「マスク」「湿度の調整」などです。他にも、緑茶やヨーグルトに予防効果があるようですね。日頃のちょっとした心がけで感染の可能性を低くすることができます。

流行が心配される時期にはいりました。早い時期から予防策を徹底し、インフルエンザに罹らずに元気に過ごしましょう。

菊池郡市医師会立病院 外来診療表

	午前/午後	月	火	水	木	金	土
総合内科	午前	松田 浩治	信岡 謙太郎	松田 浩治	豊永 哲至 信岡 謙太郎		豊永 哲至 松田 浩治
糖尿病センター 代謝内分泌科	午前	矢野 智彦 古賀 荒太郎	田口 哲也 矢野 智彦	田口 哲也		矢野 智彦 古賀 荒太郎	田口 哲也
循環器内科	午前	予約	石坂 浩	古賀 敏	石坂 浩	熊大 循環器科	古賀 敏
	新患	古賀 敏	石坂 浩	古賀 敏	熊大 循環器科	石坂 浩	
腎臓内科	午前					緒方 智博	
	午後		(主)植田 美紀 (副)緒方 智博				
消化器内科	午前			検査のみ (熊大 消化器科・他)	済生会 熊本病院		
	午後			検査のみ	検査のみ (済生会熊本病院)	検査のみ	
神経内科	午前			井上 泰輝 (熊大 神経内科)			
放射線科 (CT・MRI)	午前/午後	本田 伸	本田 伸	本田 伸	本田 伸	本田 伸	仙波 明子 (熊大 放射線科)

外来受付時間：午前8時30分から午前11時30分

診療時間：午前9時から午後12時

※午後の腎臓内科は予約制となります。

※検査は予約制となります。

【病院理念】

かかりつけ医の先生方と連携して、地域の皆さまに信頼され、愛される病院を目指します。

【基本方針】

- ・チーム医療と地域連携に努めます
- ・より良い医療の提供を目指し、研修・研鑽に努めます
- ・自己満足に陥ることなく、業務改善に努めます
- ・病院の健全な運営を目指します



一般社団法人 菊池郡市医師会

菊池郡市医師会立病院

〒861-1306 熊本県菊池市大琳寺75番地3

TEL:0968-25-2191 FAX:0968-24-5762 <http://www.kikuchi-hosp.com/>

発行責任者：病院長 矢野 智彦

